

理学部における障害・疾患のある学生に対する入学後の修学支援の流れについて

1. 相談体制

障害・疾患のある学生から修学上の配慮・支援の相談を受けた教職員等は、その相談内容に応じ対応を行うが、個別の対応・判断が困難な場合には、相談窓口となるキャンパスライフ・健康支援センター（コミュニケーション・バリアフリー支援室、健康相談室、学生相談室、学生支援コーディネーター室）に相談する。

2. 理学部における合理的配慮の協議

配慮・支援要望書を受理した理学部長は、所属学科（担当教員）へ要望内容を通知する。

所属学科（担当教員）並びに理学部等学生係は、合理的配慮の協議に必要な当該学生に関する基礎情報、および留意事項等を共有するため、キャンパスライフ・健康支援センター（面接対応者等）に相談する。その上で、配慮・支援要望書の外、これらの基礎情報等を基に所属学科（担当教員）は、当該学科における合理的配慮の内容について協議する。

なお、授業科目・試験等に関する配慮・支援の具体的内容は、各授業科目の教育目標や教育方法等に則して、担当教員の判断を踏まえ協議するものとする。

理学部長は、当該学科（担当教員）が協議した配慮・支援内容について、教務委員会または学生委員会へ審議を依頼する。委員会より審議結果の報告を受けた理学部長は配慮・支援内容を決定し、学科長会議へ報告する。

また、合理的配慮の協議において、下記の事項についても留意する。

- ・理学部のみでの対応が困難な事案については障害者支援推進担当理事（学生支援課）に相談する。
- ・要望した学生が基幹教育科目を履修している場合は、基幹教育教務係と情報共有に努める。
- ・要望した学生が他学部所属の場合は、学生の所属学部学生係と情報共有に努める。

3. 配慮・支援内容の通知

理学部長は、決定した配慮・支援内容について、学部長名義で「配慮・支援依頼文」により、配慮・支援の内容を作成し、面接対応者に確認を求める。

面接対応者の確認後、当該学科（担当教員）へ通知し、配慮・支援を依頼する。また、併せて、当該学生へも配慮・支援内容を通知する。

4. 配慮・支援の実施

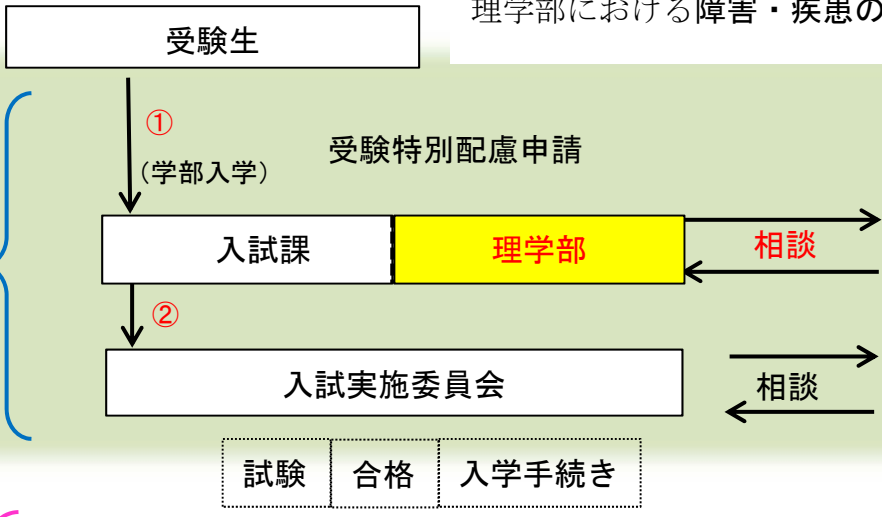
当該学生から支援にあたり各授業科目、または支援内容について相談・要望等があった場合は、当該学科を中心に個別に対応していく。

当該学科（担当教員）は、配慮・支援実施にあたって必要な準備等がある場合は、理学部長もしくは理学部等事務部と協議する。

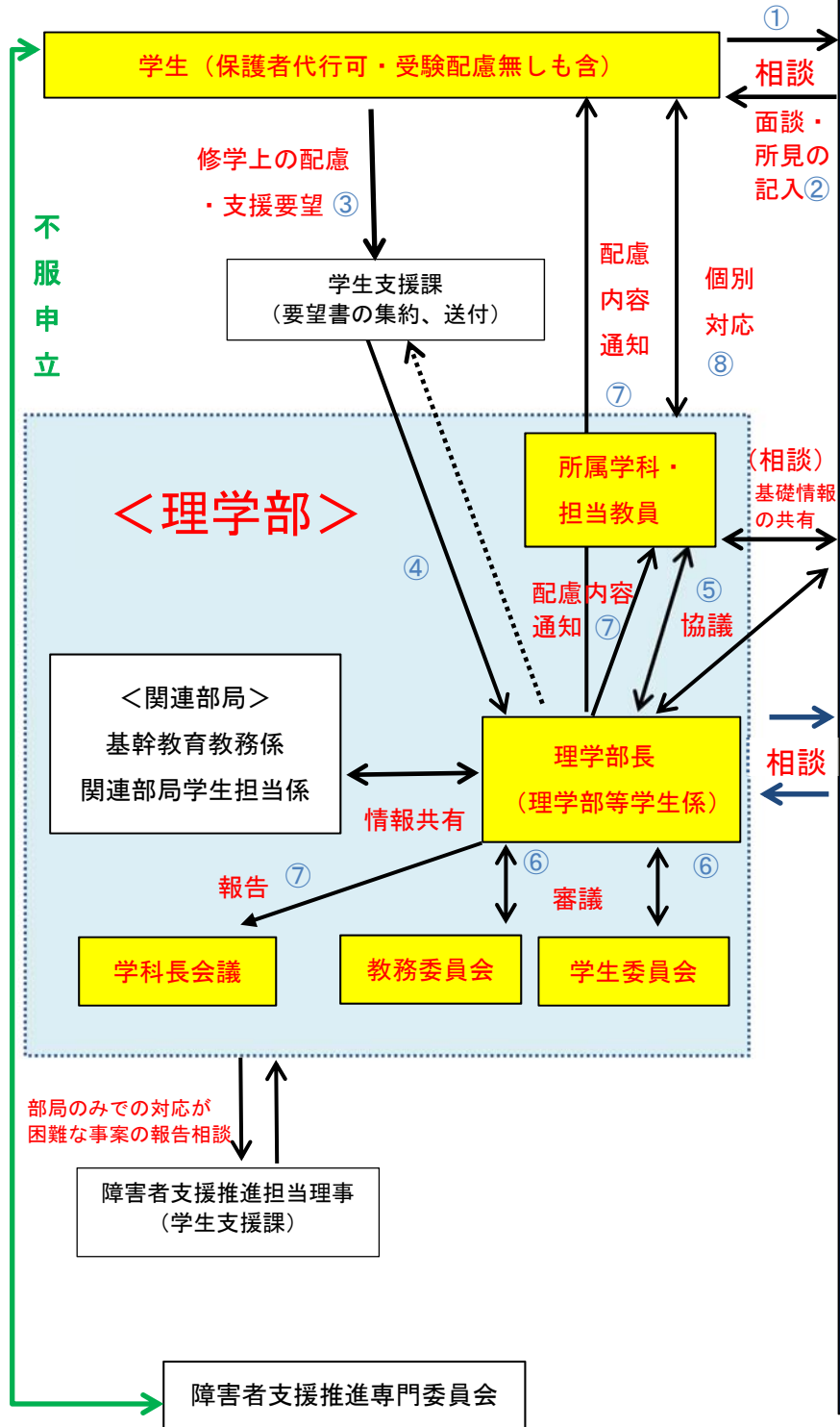
※ 配慮・支援の検討、実施にあたっては、適宜、キャンパスライフ・健康支援センターに相談するものとする。

理学部における障害・疾患のある学生に対する修学支援の流れ

入学前



入学後



キャンパスライフ・健康支援センター

* 障害種、配慮内容により、関連するところへつなぐ

* 相談窓口
 →コミュニケーション・バリアフリー支援室
 →健康相談室
 →学生相談室
 →学生支援コーディネーター室